

市民発！

市民団体による フューチャー・デザインの取り組み

フューチャー・デザイン宇治 世話人

山上義人(まちづくりねっと・うじ)

上島 均 (平等院表参道まちづくり協議会会長)

瀬戸真由美 (自営業・主婦)

三浦まなみ(保健師)

フューチャー・デザイン宇治とは？

「住民が主体的に地域づくりを考えるきっかけの場」

1. 自主運営

- 有志4人の世話人(+京都文教大学 森正美先生の助言)による運営体制
- 2カ月に一度程度のワークショップ開催

2. 市民レベル

- 行政の関与なし
- フラットな関係(出入り自由)

* 自由な雰囲気、利害関係がなく対等な議論を行っています

3. 多様性

1. 多様な主体の参画(性別、年齢、所属、経歴など)
2. 毎回ワークショップの参加者が異なる

* 斬新なアイデア、楽しさ、わくわく感を共有できる場になっています



2019年2月17日『京都新聞』より

フューチャー・デザインとの出会い



- ・2018年10月 宇治市主催のフューチャー・デザインのシンポジウム
「かんがえよう これからの地域の未来。」に参加

フューチャー・デザイン？

- ・2018年10月～ 2019年1月
「**地域コミュニティの未来を考えるWS**」4回 宇治市主催

未来人の体験

* このままフューチャー・デザインの手法を活用したWSを
収束させるのは、「もったいない」

最終回(1/28)に継続の呼びかけ

およそ3分の2の参加
者が継続を希望



市民“発”の活動スタートへ

- ・2019年3月2日に市民の有志による
「**フューチャー・デザイン宇治**」を発足
参加者約20名、約2か月ごとにWSを開催
- ・2019年5月12日 3つのテーマ(健康、防災、商業)の
現状と課題のWS
- ・2019年7月 6日 3つのテーマ(健康、防災、商業)
2050年の未来人になりきってWS
- ・2019年9月 7日 将来像へのロードマップと条件WS



第二期の活動スタートへ

価値観の変化伝え合う

宇治市 宇治市立第二中学校 生徒 佐藤 大樹



「価値観を伝え合う」... 価値観の違いを伝えることは、コミュニケーションの重要な要素である。ワークショップを通じて、お互いの価値観を理解し、尊重し合うことが大切である。

・2020年2月 8日 第二期 1回目WSの開催



新型コロナウイルスの感染拡大

・2020年6月27日 オンラインと対面のハイブリットWS開催

「未来人を経験した私たちが見るアフターコロナ」

・2020年9月26日 オンラインWS開催

「目指したい都市像

～持続可能な30年後の宇治のまち～」

私たち自身も継続的にフューチャー・デザインにより**主体的な地域づくり**を学び続けています

フューチャー・デザインとの出会い②

・地域
・社会

フューチャー・デザイン
「将来可能性」

「将来可能性」
今の利得がたとえ減るとしても、
これが将来世代をゆたかにするのなら
この意思決定・行動そのものがヒトを
より幸福にする

・母子
・企業
・地域

保健師の視点で
地域と関わる

・出産
・育児
・病院

子育てを通じて
親を取り巻く環境を
知る



全3回のWSへ是非ご参加ください

- 宇治市に関わる1人1人が主役
- 生きやすい環境を整える
- 化学反応を楽しむ

ご清聴
ありがとうございました

